

2009年度文部科学省採択

大学教育推進プログラム／戦略的大学連携支援プログラム GP公開合同フォーラム

【教授過程・学習過程の構造化と学習成果】

～学習支援型IRと科目クラスター化の成果と可能性～

開催日

～シンポジウム～

2011年**12月3日**(土)

10:00～16:40(受付 9:00～)

～ポスターセッション～

2011年**12月2日**(金)

15:00～17:30(受付 14:30～)

会場

関西国際大学 尼崎キャンパス
KUISホール (301大講義室)
JR尼崎駅下車5分

入場無料



お申し込み方法

●参加申込書に必要事項を明記のうえ、メールまたはFAXにて下記まで11月25日(金)までにお申し込みください。

E-mail > sympo2011@kuins.ac.jp

F A X > 06-6498-4748

▼チラシ・参加申込書は、ホームページからダウンロードできます。
<http://www.kuins.ac.jp/kuinsHP/extension/cluster/sympo/index.html>

■ 12月2日(金) 15:00～17:30 ポスターセッション

■ 12月3日(土) 10:00～16:40 シンポジウム

第1部

10:00～10:50 関西国際大学の教育改革の構造を振り返る
～学習支援・初年次教育からクラスター、学生支援型IR、
初年次サービスマーケティング、ルーブリックの評価まで～

演 名 篤 関西国際大学 学長

10:50～12:20 基調講演

「大学教育を通じた共通基盤の確立と個性の発揮」

榎 本 剛 氏
文部科学省 高等教育局 企画官(兼)高等教育政策室長

第2部

13:20～14:20 クラスター化とIRの取組概要と効果の検証

中 尾 繁 樹 本学 学長補佐 教育学部教授
藤 木 清 本学 学長補佐 評価室長 人間科学部教授

14:30～16:30 パネルディスカッション

テーマ「教授過程と学習過程におけるマネジメントの必要性」

コーディネータ 演 名 篤 関西国際大学 学長

パネリスト 川 嶋 太津夫 氏
神戸大学 大学教育推進機構教授

関 田 一彦 氏
創価大学 教育学部 児童教育学科教授

森 朋子 氏
島根大学 教育開発センター 准教授

16:30 閉会の挨拶

上 村 和 美
本学 学長補佐 高等教育研究開発センター長
人間科学部教授

● 趣旨

関西国際大学では、開学当初より、高等教育のユニバーサル化への対応を重視して、GPAの導入、および日本初の学習支援センターの設置など、様々な学習支援の取組みを実践してきた。その活動成果が評価され、2004年には「大学のユニバーサル化と学習支援」で文部科学省より「特色ある大学教育支援プログラム」に選定された。その後、新たな活動や体制の見直しを進め、GP等の大学教育改革事業として、「初年次教育の統合化と学士課程教育への展開」、「初年次サービラーニングの取組」、「出遅れない就職活動へ誘うための重層的支援」など、学習支援・学生支援に関する取組みを中心に展開してきた。さらに、2009年度の下記2事業の選定を契機に、教授過程と学習過程のマネジメントについて構造化を図り、全学の教育のさらなる改善を図っている。本フォーラムでは、これまでの本学での教育改革の取組みについて振り返りを行う。

本フォーラムの後半では、本学の取組みを参考にしながら、これからの高等教育改革の方向性についてのパネルディスカッションを設定した。高等教育研究に取組むとともに学習支援、協同学習、協調学習、体験学習等の、現場などでの教育改革の実践経験も豊富な先生方をお招きし、「教授過程」および「学習過程」におけるマネジメントをテーマとして、これからの我が国の高等教育の在り方を考えていく。

● 基調講演講師紹介

榎本 剛 氏

2008年8月から現職。大学分科会において議論が完結していた「学士課程答申」（2008年12月）の最終的な取りまとめをするとともに、現在の大学分科会の審議の方向性を定めた諮問「中長期的な大学教育のあり方について」（2008年9月）以降の審議の運営を担当。

● パネリスト紹介

川嶋 太津夫 氏

名古屋大学大学院で教育社会学を専攻。1993年に神戸大学大学教育研究センターに助教として赴任。1999年に教授に昇任。大学教育推進機構および大学院国際協力研究科教授。現在、第6期中央教育審議会大学分科会委員、初等中等教育分科会教育課程部会・高等学校教育部会委員。大学評価・学位授与機構客員教授、国立大学協会入試委員会専門委員。大学入試センター試験等の改善に関する懇談会委員等。

関田 一彦 氏

イリノイ大学大学院卒業後、1992年より創価大学教育学部に勤務。現在、創価大学教職大学院教授、同大学教育・学習活動支援センター長を兼任。1997年、ミネソタ大学客員研究員。2009年、豪州クイーンズランド大学客員研究員。2008-2010年、国際協同教育学会理事。2010年から日本協同教育学会会長。

森 朋子 氏

ケルン国立大学哲学部、大阪大学言語文化研究科を修了。現職は島根大学教育開発センター副センター長。大学生の学習研究が専門。近年は初年次教育、補完教育など学士課程入口の教育プログラムが学生に与える効果について実践的研究を行っている。

大学教育推進プログラム 科目のクラスター化によるカリキュラム改革

学生の学びをより深化させるには、教育の過程における科目間の連携を図り、「クラスター化」を中心とした教育課程の体系化・構造化と教育方法の改善が必要になってくる。本取組みでは、全学的に、同学年・同学期の科目を担当する教員同士がティーチングコミュニティを形成して、教育内容・教育方法（教材やテーマ・イシューを含む）、スケジュールなどについての情報交換と協働を図る。一方で、学生はゼミ等ではラーニングコミュニティという協同学習集団をつくり、講義型および教室外活動など多様な科目を同時履修し、学習目標の達成に向けた構造的な学習活動の実現を図る。

GPの 特徴

戦略的データ主導による自律する学生の学び支援型の 教育プログラムの構築と学習成果の測定

関西国際大学、神戸親和女子大学、比治山大学、比治山大学短期大学部の3大学1短大が相互連携し、「学習支援型IR」の構築を目指す。「学習支援型IR」を活用すれば、質量共に豊富なデータ群の分析が可能となり、その結果、より効果的な学習支援を実現することが可能となる。また、IRデータを基に教育プログラムを開発し、活用することにより、連携取組みの充実・発展を図る。さらに、本取組みを大学教育全体に広めていくことにより、社会が要請する“自律した学習者”の育成を強化し、教育の質保証につなげる。

アクセス

JR尼崎



関西国際大学尼崎キャンパスへは、JR神戸線 尼崎駅を下車 徒歩約5分になります。
※駐車場がございませんので、公共の交通機関をご利用ください。

